

ミライクNews vol.5



ミライク会議の実行委員に
男女共同参画やミライク会議
などについて聞いてみました

今号は、11月に開催される日本女性会議2020あいち刈谷（ミライク会議）の主催である、実行委員会委員の2人にミライク会議への想いなどをお聞きしました。



嶺崎寛子委員

(成蹊大学文学部准教授)

日常生活で、性別による役割の違いを強く感じることはありますか。

学生から色々な声を聞きます。「兄は手伝えと言われないのに、(女の)私ばかり家事をやらされる」「女の子だから浪人と県外進学はダメと言われた」「初の女性生徒会長になったら、女生徒の答辞は前例がないとの理由で、生徒会長が行う卒業式の答辞をやらせてもらえなかった」など。個性ではなく性別などの属性を重視する意識は、まだまだ強く残っています。

男女共同参画を進める上で、の課題や解決するために必要だと感じることは何ですか。

社会の仕組みと、一人一人の意識の両方を変えることが課題です。育児や介護など、誰かの世話をすることを専門用語で「ケア労働」といいます。これは人間社会に必要不可欠です。人には、乳児

期や晩年期など、誰かの助けがないと生きていけない時期が必ずあるからです。このケア労働の多くが、主に家庭内で、女性によって無給で担われています。また社会にとって不可欠なケア労働を「各家庭の私的な問題」と位置付けてしまうことで、それにかかる膨大なコストは、社会的にないものとされてきました。

まず、ケア労働を見える化し、それを性別にかかわらず担うという意識改革を一人一人がすべきです。女性の社会進出には男性の家庭進出が欠かせません。男女共同参画社会は、みんながその意義を理解し、協力して初めて実現できます。

ミライク会議は、どんな人に参加してほしいですか。

若い人、日々モヤモヤする気持ちを抱えている人、そして「ミライク会議なんて自分には関係ない」「私は女で(男で)困ったことではない」と思っている人にこそ、来ていただきたいです。



塚本裕章委員

(一般社団法人まちづくり支援センター代表理事)

日常生活で、性別による役割の違いを強く感じることはありますか。

ミライク会議をきっかけに、日常生活の分業を意識するようになりました。私は、洗濯や風呂掃除、ゴミ出しなどを行っています。料理ができないので、それ以外の力仕事を含め、やれることをやっています。

男女共同参画を進める上で、の課題や解決するために必要だと感じることは何ですか。

私は今まで、男女共同参画を意識して生活したことはありませんが、「誰もがやれる時にやれることで支え合う」という気持ちで暮らしてきました。今回ミライク会議に携わり学ぶ中で、男性の理解度が上がらなければ、男女共同参画は進まないと思えて強くなりました。日本社会では、多くの物事を決めているのは、男性だと実感しているからです。

今後ますます多様化する社会では、変化に対応する上で色々な視点が必要だと思います。そのためには性別、年齢に偏りがない、バランスの取れた話し合いの場が必要だと思います。「女性会議」という名前にとらわれず、多くの男性にも参加してほしいと思います。

ミライク会議を通して、社会に向けてどのような想いを届けたいですか。また「あいち刈谷」がどうなっていてほしいですか。

3年ほどかけてミライク会議の準備をしてきました。このミライク会議開催はゴールではなく、「市民一人一人が自分らしく、尊重され、平等であることを実感できるまち」として、刈谷市がさらなるステップアップのきっかけとなる大会にしたいです。



学生ジャーナリストの感想



ミライク会議は日常生活における意識や行動を見直すきっかけになると思います。性別、年齢に関係無く、皆さん一緒に参加しましょう！
山本真帆さん



「やれることをやれる人で！」誰もが大切にされる社会のために、この考えが広がるきっかけになるといいです。
鈴木愛乃さん